



## 牧之原市子ども読書活動推進計画（第2次）概要

変化の激しい時代において、子どもたちが読書は楽しいと気づき、自ら自由に読書を楽しみ、課題解決や将来の夢を見つけられるよう、牧之原市子ども読書活動推進計画（第2次）を策定しました。

計画期間：令和8年度から令和12年度までの5年間

### 基本的な考え方（方針）

- ・ これまで行ってきた読書活動は持続的に実施
- ・ 読書が楽しい、面白いという気づきが必要
- ・ 発達段階（年齢・学齢など）に応じた読書活動を推進
- ・ 家庭、学校等、地域、図書館が連携して事業推進
- ・ 社会教育における読書推進（大人も含めた読書活動）
- ・ 多様な利用者への対応を意識

### Ⅰ 計画策定の背景

牧之原市では、平成19年に子ども読書活動推進計画を策定しましたが、その後、予測困難な事象（パンデミック、災害、グローバルな世辞的不安など）が発生し、確定的な施策が打ちにくくなりました。また、デジタル化や技術革新により社会は大きく変化しました。

さらに牧之原市においては、令和3年に「図書交流館いこっと」、令和6年に「文化の森図書館いろ葉」が整備・拡充され、子どもたちの読書環境が改善されました。

今回、このような変化の激しい時代に適した子ども読書活動を推進するため、新たに第2次計画を策定するに至ったものです。

## 2 ありたい姿(将来像)

# 夢さがし、豊かな自由読書

新たな計画のありたい姿を「夢さがし、豊かな自由読書」としました。この計画を実施することによる将来像を示したものです。

具体的には、子どもたちが身近に本に触れることにより子どもが抱える課題解決の足掛かりになったり、将来における夢を見つけたりするなど、これから進むべき道筋を探し当てること、これを「夢さがし」としました。

読書経験が子どもの夢に繋がったり、読書による言語能力を含むリテラシーの向上により、日々の生活が豊かになることを期待するものです。

また、「豊かな自由読書」とは、読書が強制的ではなく子どもが自分の意志で自由により行われること(自由読書)、これを前提に子どもが本を読みたいと思ったその機会を逃さないよう、関係機関が全方位の読書環境を整えていきます。



<写真:子どもたちは全集中、魅力的なおはなし会>